

・3つの検証報告書について

齋：見ている。よくまとまっている。国と県の整合性が課題。福島事故は想定外だった。想定があまかった。セーフティーネットが重要。技術委員会が指摘したことを東電が対応できるか疑問。健康委員会の指摘は放射能の影響なのかわからない。避難はダメ。豪雪時にはどうにもならない。避難計画は無理。生活分科会は規模によるのでどう想定するかで変わってくる。

植：厳しい課題がたくさん提示されていた。

・停止中と稼働中の事故進展の比較について（2017.10.4 東電提出データを提示）

植：このように停止中と稼働中では危険性がまるで違う。

齋：そのとおり。

・3月6日の県議会での最大会派からの慎重意見について（「今の東電が再稼働することは受け入れがたい」など）

齋：桜井さんの発言は代表質問。県の自民党の意見であり、公式なもの。

植：齋京さん個人の意見は？

齋：同じ。十日町の1車線道路では避難できない。事故が起きる前提で道路などを考えてほしい。

植：4年前の県議選の時と原発再稼働についての会派としての考えが違ってきているが、何が変わったのか？

齋：核防護の問題は致命的。国内の問題ではなく、国際的な問題。原発は自衛隊が守るべき。

東電は隠さなくなった。そこは評価できるが今の状況では再稼働を担うことに不安がある。

・避難計画について（3つの検証についてと重なる部分あり）

齋：国が動かしたいなら、国が責任を持って道路などを確保するべき。

植：PAZの住民が避難しているときに、PAZの外の住民は屋内退避するだろうか？

齋：事故が起きればだれも屋内退避せず一斉に逃げ出すだろう。それを止めることはできない。

・再エネ促進について

齋：議会で何度も質問している。エネルギーミックスが必要。太陽光には批判的。小水力を推進すべき。

産業用の電気のレベルと、家庭用の電気のレベルを別に考えるべき。

植：確かにその通り。

齋：特に産業用では安くて安定した電気が必要。太陽光と風力は安定的でない。

植：住宅に太陽光パネルと小型風力発電機を併設して、特に雪国での太陽光の欠点を補うのはどうか？

齋：家庭の電力としてはいいアイデアだが産業用の電力としては今の技術では不安定さは払しょくできない。

・柏崎再稼働について

植：明言はできない？どちらでもない？

斎：原発そのものは国策なので、国に従うべきだが、現状での柏崎刈羽原発の再稼働には反対。

(その他)

斎：核のゴミの問題ある。LNG はいい。CO₂ で本当に温暖化するのか疑問。

植：CO₂ で温暖化しない、という説はまれに聞く。その通りなのかもしれない。

斎：原発反対派は、原発を使わないなら再生可能エネルギーオンリーの主張ではなく CO₂ を排出する火力や LNG を使う、と言うべき。CO₂ を排出するのはやむを得ないとしなければ矛盾する。

植：まずは原発を止めてガスにして、ガスから徐々に再エネにしていくべき。

斎：原発はシビアな事故が起きれば環境に最悪。だが安定した電力供給には必要。

植：次世代型原発は建設費用が桁違いに高い。安いのならまだしも。

斎：なぜそこに金を費やすのか私もわからない。核融合などは研究すべき。